

# 新風

平成27年4月8日  
多治見市立陶都中学校  
No. 1

## 新入生191名を迎えて、平成27年度が始まりました。

多治見市立陶都中学校校長 松山 央<sup>ひろし</sup>

しばらくはひっそりとしていた学校にも子ども達の声に戻り、心浮き立つ春がまたやってきました。

昨日は191名の新入生を迎え、いよいよ本日より、全校生徒565名と49名の教職員からなる平成27年度の陶都中学校が始まりました。

新入生の皆さん、入学おめでとう。在校生の皆さん、進級おめでとう。また、保護者の皆様には、お子様が新しい節目を無事迎え、元気に新年度を出発されたことを、心からお喜び申し上げます。

さて、この度の異動で本校の教職員の顔ぶれも、大きく入れ替わりました(裏面に掲載)。これまでの陶都中をしっかりと支えてくれた教職員の転出は寂しい限りです。ですが、学校は毎年こうした教職員の入れ替わりを繰り返しながら、よい意味での新陳代謝を行っていくところであり、そこから生まれる新たな風に期待をしています。私自身、新スタッフを目の前にして、改めて心引き締まる思いとなりました。その席上では、以下のようなことを述べました。

・昨年度は、自分自身が陶都中学校に勤める者としての責任の重さを改めて感じた1年間でした。その責任とは、以下の3つと考えられます。

①多治見市の玄関口に一番近い場所にあり、その多治見市の象徴とも言うべき「陶都」という名前を有する伝統校である。地域の負託にこたえる責任

②これまでの教職員や生徒の努力が実り、学ぶ姿勢をしっかりと身に付けた生徒が通う学校である。生徒の可能性を伸ばし、力を付ける責任

③生徒数565名、教職員数49名の大規模校であり、それぞれに刺激し合い高め合えるエネルギー豊かな環境である。本校ならではの教育環境を生かし切る責任

・こうした学校だからこそ、「生徒も教師」も「自信と誇り」をもって臨み、「学ぶ喜び、関わり合う楽しさ」のある学校を目指したい。

こうした思いを全教職員で共有し、今年度をスタートさせたような次第です。このように、今年度もこの学校報を通して、出来る限り学校の様子をお伝えしていきたいと考えています。今月号は、やはり教職員の様子となりますが、春休み中の学校の様子を少しお伝えします。

4月1日に今年度の校務分掌を発表して以来、教職員は急ピッチで新年度の準備を進めて参りました。右上の写真は、食物アレルギー対応研修会の様子です。給食という大切な食の場における安全を期して、全職員で研修を行いました。下の写真は、恒例の掃除研修の様子です。「掃除」は本校三本柱の一つです。まずは、私たち教職員全員が共通指導できるよう、最初の挨拶から終わり方までを同じ生徒の立場に立って確認をし合いました。続いて、今年は特にトイレ掃除の仕方についてきちんとしておこうということで、トイレに移動し、掃除の手順や方法を確認し合いました。その後は、その確認に基づき各グループに分かれて校舎内の各トイレを掃除しました。お陰でトイレは、新学期の準備万端となりました。



このように、私たち教職員も新しい仲間と共に、力強く歩み出しております。子ども達も新たな仲間と共にはつらつと歩み出して欲しいと思います。今年度もどうかよろしくお願い致します。